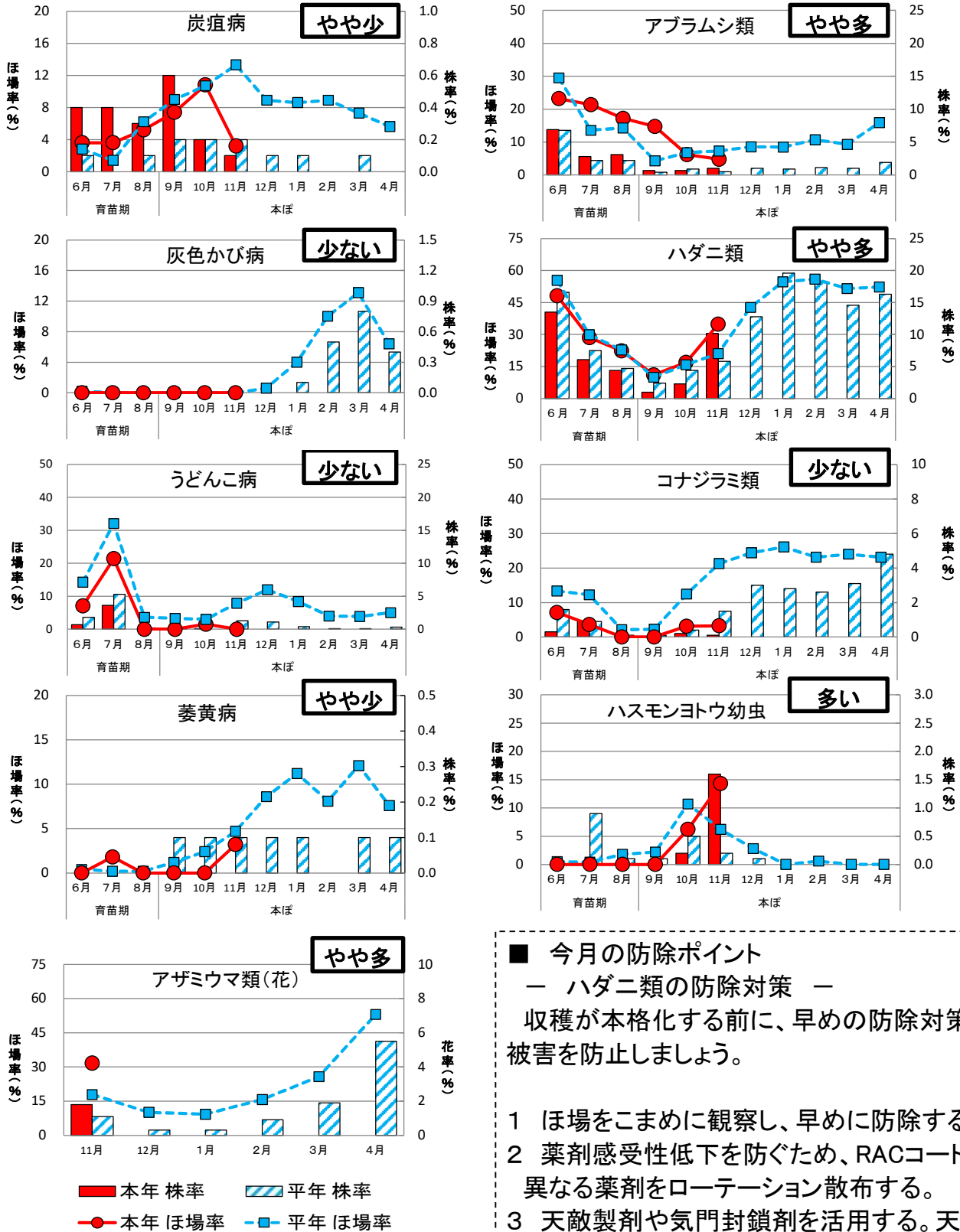


# いちご病害虫情報第6号 (11月)

令和6(2024)年11月22日  
栃木県農業総合研究センター  
環境技術指導部

## ■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：65 か所】



※ほ場あたり25株調査

※株率(%) : 発生株数 / 調査ほ場数 × 25株

※ほ場率(%) : 発生が確認されたほ場数 / 調査ほ場数

### ■ 今月の防除ポイント

#### — ハダニ類の防除対策 —

収穫が本格化する前に、早めの防除対策で被害を防止しましょう。

- 1 ほ場をこまめに観察し、早めに防除する。
- 2 薬剤感受性低下を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- 3 天敵製剤や気門封鎖剤を活用する。天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、導入前に天敵に影響の小さい薬剤で

## ■ 今月のトピックス 越冬前の害虫防除

### この時期の対策で冬～春の被害を抑える

近年は秋になってからも気温が平年より高く推移しているため、害虫の活動期間が長くなっています。それでも、霜が降りる時期になると、日中・夜間の温度低下により昆虫の活動は停止し、一部は死滅します。ハウスの開口部を開ける時間も短くなり、飛翔によりハウスへ侵入するアブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類、チョウ目（ハスモンヨトウ、オオタバコガ）等の侵入リスクは低下します。一方で、既にハウス内へと侵入した害虫は翌春まで発生し続けることとなります。この時期の防除対策をしっかりと実施することで、翌春までの被害の低減が期待できます。

### ハウス内で越冬する害虫を減らすコツ

- チョウ目の蛹やアザミウマ類の卵・蛹は、土中や植物の組織内部に存在するため、薬剤が届きにくいです。ハウス内で害虫の発生量が多いと様々な発育ステージが混在するので、一度の防除では生き残る虫が多く、短期間で害虫密度が再び増加するおそれがあります。間隔をあけて複数回の防除を実施し、十分に密度を下げましょう。



写真1 ハスモンヨトウ幼虫



写真2 オオタバコガ幼虫と花の被害

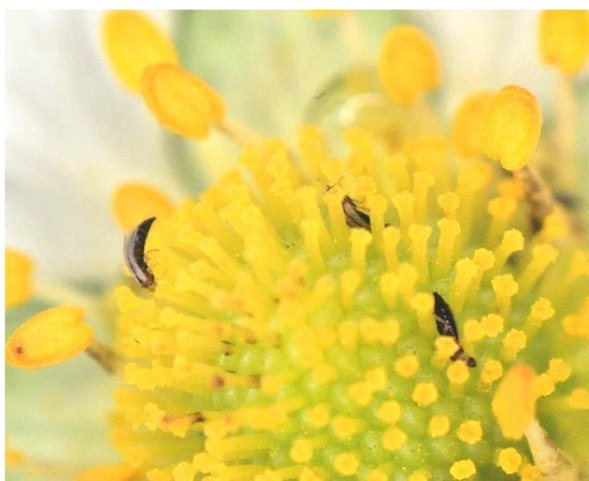


写真3 花に寄生するアザミウマ類

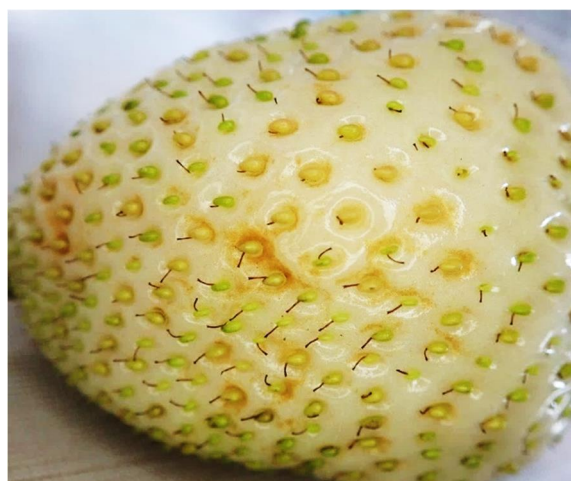


写真4 アザミウマ類による果実の褐変

- 葉数が増えてくると、株元や葉裏のアブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類等の発生に気づきにくくなり、薬剤もかかりにくくなります。適切に葉かきを行い、薬剤散布時には展着剤を使用することで、防除効果の向上が期待できます。薬剤

散布時には葉裏や株元への薬液の付着状況を必ず確認し、不十分な場合には、薬液の付着を意識しながら噴口の向きや動かし方を工夫しましょう。



写真5 オンシツコナジラミ  
成虫と卵



写真6 ワタアブラムシ



写真7 マルチ上に付着した  
アブラムシ類の脱皮殻



写真8 アブラムシ類による株元とマルチの汚れ

- アブラムシ類やコナジラミ類は、盛んに“甘露”を排出し、すす病の原因となります。発生すると、寄生株の葉や直下のマルチ上にポツポツとした甘露の跡を残すため、注意深く観察して早期発見に努めましょう。アブラムシ類では、甘露の跡に加え、マルチ上に多数の脱皮殻がみられる点も重要な観察ポイントです。
- ハウス入り口付近や、内張りと外張りの間等には、雑草が繁茂しやすく、各種害虫の温床となります。特に、各種の微小害虫は、雑草上で発生していても気づきにくいいため、こまめな除草に努めましょう。
- この時期にハウス内の害虫密度をしっかりと下げることで、来年の春先の害虫発生を抑えることができます。なお、天敵資材を導入しているハウスでは薬剤選択に注意しましょう。

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課  
(Tel 028-665-1244) までお問合せください。

病虫害情報発表のお知らせはX(旧ツイッター)「栃木県農政部  
([@tochigi\\_nousei](https://twitter.com/tochigi_nousei))」、農業総合研究センターホームページ  
(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>)でも  
ご覧になれます。

